

和歌山県立紀央館高等学校 学校運営協議会

令和7年度 第3回【 11月1日（土）】

出席者：委員7名、傍聴人2名

日程

- ①紀央館高等学校文化祭（紀央祭）の見学 [CLT優秀作品の展示鑑賞]
- ②学校の今後の在り方について
- ③協議
 - ・生徒の様子について
 - ・今後の文化祭の在り方について

意見・感想など

- ・22回目となる紀央祭が盛況であったことを評価し、毎年特色が出ていると感じる。
- ・各展示の質の高さを感じた。漫画研究部は緻密な作画を、また美術部や書道部、授業での作品についても高く評価する。クラフトテープで作られた動物、木彫りの作品、繊細なボールペン画など、創造性の高い作品に感心した。CLTの発表では、地域の美容室に関する生徒のレポートが深く考察されており、非常に有益だった。
- ・生徒数が減少する中、体育館や食品販売テントを校門付近に集約したこと、活気ある雰囲気が生まれており、今回の形式は良い。
- ・PTAによるチュロス販売も好調で、保護者役員の積極的な参加が確認され、PTA活動としての意義を再認識した。
- ・一般公開は地域住民やOBが学校を知る絶好の機会であるため、今後も強く希望する。

まとめ（紀央祭の意義と今後の対応について）

紀央祭の企画・準備・運営までのプロセスを経験することが、社会に出てから最も重要なスキルを養う上で不可欠である。3年生が上手に運営し、1年生がそれを見て学ぶという継承のサイクルが生まれている点を評価していただいた。今後、年々内容が向上していくことを願う。また今年度のCLTの発表では、以前の身近な体験（祭りやゴミ拾い）から、環境問題や空き家問題といったより深い社会課題へと変化していることに感心したというお言葉も頂戴した。今後の課題としては高齢の来場者などのために、休憩スペースを確保するなど家族が団らんできる空間の確保や、体育館でのパフォーマンス観覧を床に座るのではなく、椅子を用意することなどが挙げられた。人気のあるダンス発表等の投票制度導入案などもあった。今回は久々の一般公開であったが、地域の方や未来の紀央館生のため、また生徒が協働の機会を通じて養われる力を育む場となる紀央祭を発展させていきたい。